



日本初の映写は京都だった！
小学校跡地での初映写から映画産業が開花

明治30年、稲畑産業㈱創業者で京都出身の稲畑勝太郎が、リュミエール兄弟が発明したシネマトグラフという撮影兼映写機をフランスから日本に持ち帰った。初の映写は元立誠小学校跡（現在の四条木屋町上る）で行われ、試行錯誤の末、京都の企業の協力により成功に至った。これが日本映画の先駆けとなり、その後の京都の映画産業を開花・発展させる一翼となった。

[写真提供] 京都太秦映画村資料室



大正8年12月に行われた『白菊物語』(京都・嵐山)のロケ風景 シネマトグラフは不使用

京都市ベンチャービジネスクラブ機関誌

SHAKE HANDS Letter

創造・交流・成長

<http://www.kvbc.jp>

発行人 京都市ベンチャービジネスクラブ
事務局 京都市中京区寺町通御池上る
京都市産業観光局商工部産業振興課内
TEL (075)222-3324

12・1

227

2008年1月10日発行

有言無限

新年挨拶

京都市産業観光局長 森井 保光

新年おめでとうございます。新春を迎え、市民の皆様のみずみずの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

また、平素は、産業観光行政はもとより、京都市政の推進に多大な御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の経済は、輸出の増加等を背景に、緩やかな景気回復が続いております。京都市におきましても、電子部品や電気機械の大手企業を中心に好調な業績を維持しており、全体として景気回復に向かっておりますが、原油・原材料価格の高騰や米国経済等の動向による影響など懸念材料が多く、先行きは不透明な状況にあります。

このような中、活力あふれる地域経済の構築に向けて、産業観光局と致し

ましては、社会経済情勢を踏まえた戦略的な施策の推進と市民ニーズに即応した着実な事業の展開を図って参る所存です。

とりわけ、京都経済の担い手である中小企業の振興はきわめて重要であるとの認識の下、引き続き、あらゆる業種を対象としたきめ細やかな経営・金融相談をはじめ、産業技術研究所や京都高度技術研究所による技術支援等を実施するとともに、「京都市伝統産業活性化推進計画」や「京都市産業科学技術振興計画」に掲げた事業を着実に推進して参ります。更に、目前に迫った入洛観光客500万人の達成のため、「新京都市観光振興推進計画」に基づき、観光施策も積極的に展開するほか、「京

都市企業誘致推進指針」の見直しを行い、企業誘致の更なる強化及び充実を図るとともに、商業振興の推進、環境に優しい都市型農林業の育成など、京都経済の振興策に一層取り組んで参ります。

今後とも、業界や関係団体をはじめ147万人の京都市民の皆様との厚い信頼とパートナーシップにより、確固たる府市協調の下、希望を持って生き生きと暮らせるまち・京都を実現して参る所存ですので、皆様の一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の御挨拶と致します。



KVBC REPORT

KVBC海外研修 in 大連



中山広場にて

日中の歴史を 今に残る史跡で振り返る

1日目。ほぼ時刻どおりに関西国際空港を出発。2時間半後、眼下にマンションのようなレンガ色の建物が連なっているのが見えたかと思うと、あっという間に目的地・大連に到着しました。日本との時差は約1時間。秋田県と同じくらいの気温といわれますが、やはり京都よりも低いようです。早速バスに乗り込み、窓外を流れる中国語の派手な看板を眺めているうちに、異国に来たことを実感しました。

やがて、バスは大連の中心地である中山広場に到着。この中山広場の周囲には、日本統治時代に建てられたバロック建築がたくさんあり、そのうちの



一つ「大連賓館（旧大和ホテル）」を見学しました。およそ100年前に日本人建築家によって建てられた大連賓館のロビーは、高い天井から吊り下げられたシャンデリア、黒光りする大理石の床、そして暖かみのある照明が印象的でした。その後、満鉄時代のマンホール蓋が唯一現存している満鉄旧本社ビル、全長36mもある虎の石像が出迎える老虎灘などを巡った後、ホテルに向かいました。

2日目。今回の一行の中には、何度も大連を訪れている上級者もいれば、中国が初めてという大連入門者もいます。そこで、2日目は3組に分かれて観光することになりました。

朝、一行10名が向かったのは旅順。日露戦争において二百三高地などでの激戦が繰り広げられた場所です。大連から1時間ほどバスを走らせると、大連の街並みとは違って、荒涼とした丘陵地帯が広がります。まずは、その一角にある「東鶏冠山北堡壘」を訪れました。ここは日露戦争当時のロシア軍要塞の一つで、コンクリートで固められた堅牢な造りは



大砲でも破壊できなかったといいます。

続いて訪れたのは、旅順攻防戦の後に、乃木希典大将とロシア軍司令官・ステッセル將軍が会見した水師営会

見所です。どんなに立派な建物かと思いきや、小さな平屋の農家で屋根の上には枯れ草が生えていました。会見に使われた机と長椅子がそのまま残っており、壁には当時の写真が何枚も掛けていました。中には戦争の悲惨さを示す生々しい写真もあり、いかに多く



日露戦争当時のロシア軍の要塞



水師営会見所の前で



の人命が犠牲になったかを私たちに語っていました。

いよいよ二百三高地へ。標高203mの頂上であってかなり寒いですが、ガイド曰く「こんなに天気の良いことはめったにない」という好天に恵まれ、旅順の街並みがとてもよく見下ろせました。とてもどかな景色ですが、昔映画で見た『二百三高地』のシーンを思い出すと、旅順をめぐる戦った日本兵の目にこの高地はとてつもなく険しい山に映ったことでしょう。

身近なデータ入力に 中国企業の技能が生きる

3日目。私たちは、今回の主目的である「益徳穿梭科技(大連)有限公司」を訪問しました。NHKスペシャル『人事も経理も中国へ』で紹介された、ニッセンの総務業務の一部を受託している企業といえば、ご存じの方も多いでしょう。日本企業向けに“BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)”、“オフショア開発”等を展開しており、現在900名以上のオペレーターを抱える、大連でもトップクラスのIT企業です。

プロジェクターを使って会社概要・業務紹介をしていただいた後、活発な質疑応答が繰り広げられました。以前に日本で生命保険不払いが問題になった際には、300人の人員で1カ月余りかけてそのデータ入力を行ったり、郵政民営化に向けて簡易保険のデータ入力を行った実績などを伺い、その業務が意外にも私たちと結びついているこ



BPOセンターにて記帳する井上代表幹事

SEを中心に開発を進める社員の皆さん



とに驚きました。その後、各セクションを案内していただきました。

まず、見学したのは「データセンター」です。日本から送られてきたアンケートなどの紙文書を、日本語でデータ入力し、日本に返送する業務を行っています。品質保持体制もしっかりしており、2名が同じ入力を行い、入力ミスがないかチェックしています。広々としたオフィスには250名ほどの社員が働いていて、黙々とパソコンに向かっていました。女性の比率は8割で平均年齢は21~22歳、月収はおおよそ2,000元(日本円で32,000円ほど)。日本とは比較にならない月収ですが、出来高制ということもあり、休憩時間も惜しんで仕事に励む社員もいるとのことでした。

全アウトソーシング時代に 日本企業の存在価値を考える

続いて、日本企業から提携業務を請け負っている「BPOセンター」を見学しました。先ほどのデータセンターの張り詰めた空気とは一転、カジュアルな服装に身を包んだ社員が仕事をしています。このセンターの社員の日本語レベルは非常に高く、80名ほどの社員は皆、日本語1級レベルで、日本語での電話やメール対応も問題ないそうです。

社員になる前には半年間の研修を受けます。研修室を見学すると、そこに

は日本語専門学校を卒業した80名ほどの人たちが、パソコンに向かって日本語タイピングの練習をしていました。全員が正社員になれるわけではなく、このうち3割ほどは不採用になるそうで、真剣な眼差しが印象的でした。

「オフショア開発センター」では26~28歳ぐらいの社員が7チームに分かれて、10名ほどのSEを中心に開発を進めているとうかがいました。仕様をヒアリングした後、詳細設計書をセンターで作成しフィードバックすることで品質を高めているとのこと。オフショアする場合、PGならば20~30万円、SEならば50~80万円の価格だそうです。ちなみにBPOならば60~80万円だということです。

来年には上場を目指しているそうで、その成長はとどまることを知らないように感じました。一方で、急速に発展を遂げている中国企業と、業務をどんどんアウトソーシングしている日本企業の関係を思うと、「日本企業は、今後生き残っていけるのだろうか?」と不安に思いました。質疑応答のなかで、「日本から出せない業務はあるのか?」との問いに対し、「意思決定・判断を要する部分は日本から出せない。人事について、給与計算や年末調整処理などはアウトソーシング可能だが、人事評価などの仕組みづくりは日本から出せない」という回答が、とても印象的でした。

今回の研修で、大連はまだまだ完成されておらず、街もビジネスもこれからさらに急速に変貌していくことを確信しました。何年か後に訪れたら、まったく違う顔を見せてくれることでしょう。



益徳穿梭科技有限公司会議場



250名が入力している入力センター

京都中小企業展 ～いちおしベンチャー・中小企業めじろおし～

「テクノ新選組!!」に KVBCから出展

去る11月8日(木)・9日(金)の両日、京都市勤業館みやこめっせにおいて「京都中小企業展 テクノ新選組!!」が開催されました。KVBC、京都市ベンチャー企業目録委員会Aランク、オスカークラブという3つの企業グループの展示会のほか、講演会やセミナーも行われました。KVBCからは10ブースを出展。企業概要や各企業で開発した製品を紹介・販売するほかデモンストレーション等も行われ、多くの来場者の目をひくこととなりました。

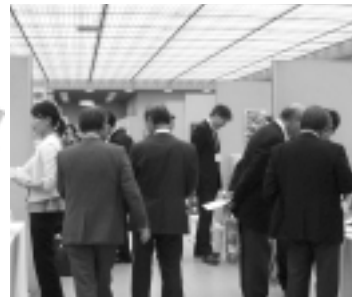
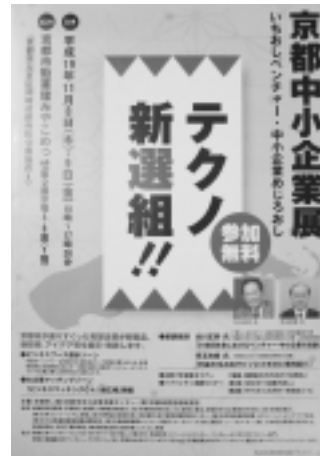
両日とも天候に恵まれ、開場の10時を待ちきれない来場者がエントランスロビーにあふれていました。KVBCの出展スペースは、入り口付近から近い位置のため、来場者も入りやすかったと思います。出展した企業から数社、両日の模様をお伺いしました。

(有)エスアールフードプロデューサー・代表取締役の齋藤氏は、「ブースのしつらいはシンプルなのに、1日目は“肉じゃが”や“カレー”のサンプルが30分くらいで完売になって驚いています。商談も2件ほど成立する運びとなり、出展してよかったです」というお話でした。(株)ユニシスの開発部長・浦氏からは「いつもは自社開発のシステムを組み込んだ製品を展示・紹介していますが、本来の趣旨とは違った質問などが多いため、今回は出展内容を変えてみました。自社が開発したソフトウェアの紹介を重点にし、来場者にわかりやすい図を編集するソフトウェア“作図エディタ”を出展しました。しかし、ソフトウェアといえば、やはりコアな方々の範疇になるので、一般の方にはちょっと厳しいですね」

と、苦笑いされていました。

また、自動欠陥検査機器を展示していた大洋エレクトクス(株)では、機器を直接紹介するよりも、「あなたの血液チェックを行っています!」として、まず来場者に自社ブースに来てもらうことを優先して出展したとのこと。検査システムは専門的な分野ながら、自分の血液の状態が見られると多くの方が訪れていました。(株)スリーエースでは、医療用ソフトウェアのデモ版を表示させながら紹介してしまし

た。来場者が途切れることなく、社員の方も力を入れた紹介・説明をされていたようです。(株)ケルク電子システムの機材は、個人向けではなく神社、工場などを対象にした防犯に関するものです。遠近法を取り入れ、一つの画面に違った箇所を撮影できる良さを話されていました。KVBCに入会間もない(株)コミュニケーション、(株)Hibanaの両社も、1日ごとに展示物に変化をつけ、真剣に自社PRしていました。



京のすぐれもの探訪

京都には、匠の技術が活かされた伝統工芸品や京野菜に見られる京都独自の食材など、すぐれものが多種多様にあります。そのような有形無形のすぐれものを取り上げ、現代社会のなかでの新しい活用法や、その可能性についても併せてご紹介いたします。

すぐき

～ けれんのない冬の味覚～

京の伝統野菜と呼ばれるものはたくさんあるが、「すぐき（酢茎）」もその一つ。その歴史は古く、今から約380年前の安土桃山時代、洛北・上賀茂神社の社家（神主や禰宜など）が加茂川の河原に自生していたすぐきを持ち帰って栽培したのが始まりだという。『賀茂文化研究』という史料によれば、漬物として知られるようになったのは江戸時代以降のことで、公家や社寺などへの贈答品として価値が高まったらしい。

今でも、上賀茂の老舗店などでは、長い丸太と重石を用い、てこの原理で樽を押さえる“天秤押し”という伝統製法ですぐきを漬けるといふ。天然の塩を惜しげもなく使い、“室”と呼ばれる加温室で発酵させたすぐきは、まるやかな酸味とほのかな甘みを醸し出す。最近の研究で、すぐきの中には整腸作用、健康維持・増進に効果のある「ラブレ菌」という乳酸菌が含まれていることがわかった。この発見をきっかけとして、「ラブレ菌」を用いた飲料製品などが現在製造されている。

伝統的な“すぐれもの”の中には、新しいビジネスのチャンスを生み出し育てる可能性が、まだまだ眠っているのかもしれない。

京都文化をはぐくんだ社家の風景

代々、上賀茂神社に仕えた神主や禰宜たちの屋敷を“社家”と呼ぶ。上賀茂神社のそばを流れる明神川に沿うように、土堀と石垣で囲まれた30軒ほどの社家が残されるが、中でも錦部家旧宅（西村家別邸）は、往時の神官たちの暮らしぶりを色濃く伝えている。明神川のせせらぎを引き入れた池泉回遊庭園では「曲水の宴」が催され、京都の有職故実がこの地ではぐくまれ受け継がれていった。『日本往生極楽記』を記した慶滋保胤も社家の出身。まさに、京都文化が凝縮した地域だといえるだろう。

西村家別邸公開 3月15日～12月8日 有料・要問合せ。



本年度の忘年会は、祇をん 新門荘にて「ものづくり研究会」と合同での開催となりました。

第一部は伝統芸能鑑賞会と題し、茶屋兼置屋を営む「祇園中ぎ志」の女将・中岸裕子さんから“舞妓さんと芸妓さん”についていろいろお話を伺いました。

お話では、舞妓さんと芸妓さんは「八坂女紅場学園」と呼ばれる学校で、「舞い」「茶道」「三味線」の必須科目をはじめとし、芸に関することはいくつでも学ぶことができるそうです。舞いについては、祇園甲部の舞妓は、井上流をしっかりと学ばなければなりません。この舞いを教わる1年間を「仕込みさん」と言い、先輩の手伝いや家の下働きなどをこなしながら、京都の文化や生活習慣などをいろいろ勉強するのです。最近では他府県出身の舞妓さん

開催の挨拶をする井上代表幹事



お話される
中岸裕子さん

平成19年度 KVBC忘年会

華やかに、にぎやかに 開催される

が多く、京都独特の言い方やイントネーションなどを教えるのが大変だと話されました。また、1年未満の舞妓さんは下唇だけに紅をさすことや肩掛け・コート・羽織は身につけたらいけない、という珍しい話も聞くことができました。約4年間は舞妓として、それから芸妓として、上に進むほどむずかしくなる「芸」の道を進むのだということです。

その後、舞妓の市和佳さんと芸妓の小郁さんに質問したり、地方の幸苑さんの囃子による舞いを拝見したり、楽しく伝統芸能にふれることができました。

第二部の忘年会は、京都市産業科学技術振興担当部長・江川博氏の乾杯で開会。鍋を中心とした和食に舌鼓を打ちました。アトラクシ



『祇園小唄』を舞う市和佳さん(中央)・小郁さん(右)と幸苑さん

ンの「競馬ゲーム」は、「ものづくり研究会」の里見事務局長が説明。ゴールが近づくにつれ、皆さん真剣になっていました。藤関幹事が考えられた「ビンゴゲーム」は、京都の社寺の名称を書くもの。しかし、最初のビンゴまでは時間がかかり、「本当にビンゴになるの？」という雰囲気でした。その後は、続々とビンゴになり、お互いに景品を見せあうなど、終始なごやかなうちに閉会となりました。



ビンゴゲームで景品が当たった参加者

ゴッホの絵を掲げる青山氏

集客交流研究会 開催

去る11月28日(水) 株式会社ユニシス会議室において集客交流研究会が開催され、今後の取り組みなどについて協議しました。

今後の活動予定

研究会全員での取り組み

KVBC本体の産業観光についてのコース・内容について企画・提案を行う
ユニバーサルデザイン観光に取り組む

京都観光コンタクトセンター設立案

- ・京都旅企画から提案
- ・ログレス貿易・岡本様から提案
- ・協力していただける企業とビジネスモデルを構築

研究会で任意での取り組み

メンバーが提案し、プロジェクトチームをつくり取り組む
京都府北部と京都市の交流
京都北部への集客交流企画を作成し、プレゼンを行う

研究会の今後の取り組み

- ・海外のインバウンドを対象とした取り組み
- ・海外に向けて「京都」を発信したい
- ・KVBCのメンバーで、「観光」をテーマにコラボする場をつくりたい

Information

活動報告&予定

11月 8日(木)・9日(金) 10:00~17:30
(みやこめっせ 第2展示場)
「テクノ新選組!! 京都中小企業展」への参加

12月14日(金) 16:40~20:00 (祇をん 新門荘)
伝統芸能鑑賞会 KVBC忘年会

11月12日(月) 18:00~ (三井ガーデンホテル京都三条)
人材ネットワークプロジェクト
サーティーズクラブ2007 第2回研修会

12月27日(木) 18:00~ **集客交流研究会**

1月22日(火) 18:30~
人材ネットワークプロジェクト
サーティーズクラブ2007 第3回研修会

12月 1日(土)~3日(月) (中国・大連市)
KVBC海外研修

1月25日(金)・26日(土) (亀岡市)
ものづくり研究会 1泊研修旅行